

1. 研究目的

乳幼児を連れた母親は、外出する際に粉ミルクセット、おむつセット、おやつや着替えなど多くの荷物を持たなくてはならない。これらに加えて自らの荷物も持たなくてはならず、大変大きな負担になる。また、かばんの中で乳幼児の飲食に関するものがしまわれている中で相反するおむつなどの排泄に関するものが煩雑に混ざり合っている現状を改善していく。

2. 調査と分析

乳幼児を連れた外出に用いるセットとそれをしめるかばんの総称をママバッグという。そのママバッグに於けるグッズとかばんの現状と問題点について調査を進めた。

◆ユーザー調査

- ・粉ミルクを作る際にこぼれたり手間が掛かる。
- ・粉ミルクを持ち運ぶケースの蓋が外れやすい。
- ・使用済みのおむつと子供用のおやつなどが同じでかばんの中にあるのが嫌である。
- ・おむつのおいが気になる。
- ・かばん自体の収納性が悪い。
- ・様々な荷物が互いにかさばるものばかりで荷物がまとまらない。

◆商品調査

ユーザーが抱えている不満点を考慮し改善された商品が市場に乏しく、類似した商品が多く店頭に並んでいる現状である。

以上の調査の結果から飲食類の携帯性と使いやすさ、おむつの携帯方法の改善が必要であることが考えられる。

3. コンセプトの立案

「ママバッグのトータルコーディネート」

ママバッグが抱える問題点を改善する為にはかばんを含めお出掛け用品をトータルで考えていく必要がある。特に問題点が多く挙げられた①「かばんの収納方法」②「粉ミルクケースのやり易さ」を主に改善していく。

4. デザイン展開

「かばんの収納方法」については、かばんの中に専用仕切りの付いたトレイを用い収納性を向上

させ、乳幼児を連れた外出には水筒やほ乳瓶など筒ものが多いのでそれらを収納できる仕切りを盛り込んだ。飲食物とおむつ類の混在を防ぐという目的はかばんの外部に専用ケースを収納するポケットをつけておむつの収納を分けた。

「粉ミルクケースのやり易さ」はミルクを作る際に手間が掛かるので、ワンタッチで作業ができるという点を留意し、量の調整が容易にできるよう設計した。また、形状はかばんの中でもかさばらず取り出しやすい筒型を採用した。

三点目としてかばん自体についても素材に撥水性のある布地を用い汚れが付き難くし、持ち手を用途毎に使い分けられるよう2種類付け工夫した。

5. 完成図



6. 結論

当初の目的であるかばんの収納性、飲食類の利便性と携帯性、おむつの携帯方法の改善はおおむね達成することができた。しかしミルクの細かい量の調整の方法、おむつケースの防臭面やサイズ感についてはもっと深い考察が必要であり、またかばんに於いてのファッション性は個人の好みによって異なる為、検証することが困難であった。それらの点について今後改良が必要である。こういったシーンでどのような問題が生じるのかをユーザーの考察を通じて、もっと深く検証が必要であったと感じた。